

## 小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。  
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	修学旅行に使える便利ツールを作ろう！！
学年	小学校第6学年
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な道具の中にも、様々なプログラムが組み込まれている事を体験を通して知る。</li> <li>生活を豊かにする道具を、条件の設定など考えプログラミングすることができる。</li> </ul>
教材タイプ	ビジュアル言語・タンジブル
使用教材	Micro:bit
環境	児童3人で1台の端末を使用
都道府県	山梨県
実施校	富士吉田市立吉田西小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>「もう一度修学旅行に行く」という仮定の下、修学旅行に使える便利ツールを作成しようと学習を始めた。</p> <p>どんなツールがあればよりスマートな修学旅行になったかの問いに対して、「熱中症予防のための温度計」「方向がすぐに分かるコンパス」「コロナの影響でバスの中での会話が思うように出来ないので、話さずにコミュニケーションをとれるもの」などの意見が出された。</p> <p>実際の場面で活用できる「持ち歩けるツール」である Micro:bit を教材とし、プログラミング学習を進めた。まずは、チュートリアルを行い、その後3人1組でお互いのアイデアや気付きを共有しながら、プログラミングを行っていった。Micro:bit を扱う事は初であったが、ビジュアルプログラミングであるため抵抗はほぼ無く、児童は様々な組み合わせを試行錯誤しつつ、アイデアを形にしていく過程をとっても楽しんでいった。あるプログラムが出来ると、それを楽しそうに友達に紹介しながら「こんなことも出来るかもしれない。」と発想をさらに広げていた。温度計・コンパス・万歩計・計算機・LED を用いたコミュニケーションツール等を作成した。</p> <p>なお、作成したツールは校外学習で活用したり、他学年の遠足等で活用してもらったりする予定である。</p>
成果と課題	身近なツールがプログラムされている事や、自分達で便利なツールを生み出せる事を実感させる事ができた。様々な教科とのリンクも考え、さらに活用の幅を広げていきたい。

